

2026年 展覧会 概略

資料 2

	展覧会名（仮）	日程	日数	展覧会内容
1	開館35周年 コレクション 展—新収蔵・初公開作品を 中心に （仮称）	4/11-6/28	68	当館は開館準備室が発足した1989年よりコレクションの収集を開始し、1991年に開館しました。その後2000年までは基金によって、芦屋ゆかりの作家の名品たちが購入され、以降は作家ご遺族や関係者からの寄贈によってコレクションが拡充されています。近年は小出檜重や具体美術協会会員の貴重な作例や、植松奎二や山村幸則といった現代作家も新たに加わりました。 本展では、元号が令和となって以降に収蔵した18作家の作品を、開館当初に収蔵した作品と併せて展示・お披露目します。当館コレクションの歴史をふり返るとともに、未来へ向けて、コレクションの展望を考える機会とします。
2	チェコ絵本の作り方—ポ ローニャ国際絵本展 受賞 絵本から日チェコ共作のコ ミックまで—	7/14-9/27	66	素朴さと洗練されたデザインで知られるチェコの絵本は、近年も魅力的な作品が次々と生み出されています。2023年には、特色や蛍光インクを用いた絵本『ミコ、キノコの世界の完全な情報誌』がポローニャ国際絵本展ラガッツィ賞を受賞し、国際共同プロジェクトによるコミック制作など、その広がりは一層注目を集めています。本展では、貴重な絵本からチェコ絵本の歴史を振り返るとともに、近年、海外でも注目を集めている最新鋭のチェコの作家たちの創作とその絵本作りの魅力を、原画、リトグラフ、デッサン、制作資料、絵本、コミックなど多様な資料を通して紹介します。
3	北斎と広重	10/24-1/19	69	幕末の風景画家の双璧として知られる歌川広重と葛飾北斎。広重は穏やかで風情があり、北斎は洋風画の影響と人物表現における圧倒的なデッサン力が認められます。そうした広重と北斎の特色を抽出し、その魅力を再確認しようとする展覧会。天候と季節、時間帯、人物描写など、広重と北斎が巧みに描き分けた日本の美しい風景を紹介。また街道や江戸名所、諸国名所、富士山など題材別にその魅力に注目します。
4	造形教育展	2/13-2/21	8	芦屋市内の就学前施設、小学校、中学校の子どもたちの作品を全館で展示します(歴史資料展示室除く)。主催：芦屋市教育委員会、芦屋市造形教育研究会
5	再考：具体/絵画	3/13-5/30	20	戦後日本の前衛美術を代表する具体美術協会。「具体」の作家たちは、絵画の枠組みを根本から問い直し、従来の絵筆による制作を超えた身体的なアプローチや新しい素材の導入を通じて、絵画を空間や時間へと開き、その概念を拡張しようと試みました。同時に、絵画の理念や本質に向き合い、その探求を深化させることで独自の表現を築いた作家も存在します。本展では、当館コレクションを中心に、吉原治良、嶋本昭三、山崎つる子、元永定正、白髪一雄、村上三郎ら、第一世代と呼ばれる「具体」会員の作品を通して、彼らが絵画に託した意識と実践を検証します。